

# 葛飾区史編さんだより

270219

Vol.10

総務部 総務課 区史編さん担当係 03-5654-8444  
郷土と天文の博物館 03-3838-1101

葛飾区



平成26年11月15日(土)午前10時から、新宿地区センターにて「昭和の葛飾を伺う会」が開催されました。多くの方にご参加いただき、新宿にまつわる様々なお話を伺うことができました。



## 草相撲

日枝神社の境内には水神社があります。この水神社は、かつて中川で水運の仕事に携わる人たちに信仰されていました。6月15日の祭礼はたいへん賑やかで中川に幔幕を張った船を出し、お囃子をあげて一日過ごしたそうです。

新宿で水神を信仰している人たちは水神講という講を結成していました。その人たちが奉納した絵馬が、現在も日枝神社に保管されています。水神講の人たちのほとんどは、東京の都心部から近郊農村に下肥を運ぶ葛西船の船頭や乗組員たちです。明治時代以前は、下肥は貴重な肥料で、お金を出して買うものでした。東京の都心の長屋やお屋敷の下肥をくみ取る権利を買い、それを農家に販売しました。その利益は非常に大きく、「下肥の船一艘は土地一町の利益に相当する。」といわれていました。新宿の水神講の人たちが賑やかにお祭りをしたというのも、経済力の大きさを物語っていると思われま



また、この日枝神社の祭りには草相撲が行われていました。草相撲は、昭和初期には葛飾区内でも数か所で行われていたことがわかっています。これまでに水元日枝神社、小合天王社、立石諏訪神社などで行われていたことがわかっていますが、これらの草相撲では力士はしこ名を名乗り、行司も装束を整えた本格的なものでした。五人抜き、七人抜きなどの競技があり、賞品もありました。

こうした草相撲の集団を、八幡講と呼んでいます。新宿だけでなく埼玉県や千葉県からも日枝神社の草相撲にやってきました。草相撲は戦後になるとスポーツの娯楽の主流が野球に変わっていったこともあり、次第に少なくなりました。

## 新宿の町

新宿は水戸街道の宿場町です。亀有から中川橋を渡ると新宿の宿並みにあたり、亀有側から順に上宿・中宿・下宿と分かれていました。この水戸街道沿いの宿並みは昭和初期にはすでに多くの商店が立ち並んでいました。昭和初期の葛飾区内では唯一「町」を思わせる地域で、喫茶店・カフェー・演芸場などが並んでいました。戦前は七のつく日の夜に縁日が開かれました。この日の昼間は松戸宿で六斎市が開かれていて、そこに店を広げた露天商たちが夜は新宿にやってきました。バナナのたたき売りなどがカーバイトの明かりの下で行われている風景は当時を知る人たちに印象強く記憶されています。

九月の日枝神社の祭礼には大きな山車が巡幸されました。この山車はその後行方不明になってしまったということですが、今般「何う会」に出席された方から写真が提供されました。

これを見ると電線にも掛ってしまうような大きな山車です。この山車や神輿が水戸街道を練り歩くのですが、日頃から付き合いの悪い家などにはこれらの隊列が突っ込むことが多く、塀などを壊してしまうことがままあったそうです。

## 不動講

この不動講が新宿には、いまも伝えられています。かつては水戸街道と佐倉道の分岐点近くに不動堂がありましたが、各種の事情で現在は移転し、そこでお焚き上げなどの行事を行っています。期日は正月、五月、九月の二十八日で、いまも新宿の旧家の人たちを中心として江戸時代以来の民俗行事が続いています。

新宿は水戸街道と佐倉道の分岐点にあたり、葛飾区指定文化財となっている「水戸街道石橋供養道標」が設けられていました。(現在は博物館で保管中)この佐倉道は成田山新勝寺に参拝する人のための道でした。新勝寺を信仰する人々は不動講と呼ばれる民間信仰の講中を結成し、成田山に参拝するほか、それぞれの地域で不動像を祀った不動堂を持ってお祭りを行いました。



陸軍参謀本部 明治 13(1880)発行 2万 4000 分の 1 迅速測図にみる河川環境図(橋本 2010)



「かつしかの文化財散策地図」2011(平成 23 年) 4 月

## 新宿ねぎ

新宿を代表する農作物はねぎです。昭和 30 年代までが全盛期で、足立区千住にあるねぎ専門の市場に出荷されていました。

